

春の彼岸によせて

令和四年三月 大乘寺 長老 岡 光俊

皆さま、お元気で過ごしてはいかがでしょうか・・・。

としかいいようのない時代・・・。
健康で過ごせることが奇跡と思える昨今。

このようなとき、私たちはなにができるのでしょうか。

そのようななかでも、

人は生きる為に前を向いて歩んでいます。

皆さまが前を向いて力強く歩んでいます。

人の生命力の強さを多くのかたからお教え頂いています。

今、自分ができることに向き合う。

今、自分ができることに集中する。

今、自分ができることを続ける。

迷っていても、あれこれ考えていても、答えは見つかりません。

まずは動いてみることでしよう。

動かないと、なにも出てきません。

動かないと、なにも変わりません。

動かないと、なにも見つかりません。

世界中であまりにも多くの命が失われていく現実、二年を超える緊張感も限界を迎え、多くの人々は麻痺状態に陥っているようにも思えます。

ここで今、改めて認識しておかなければならないことは、「命の尊さ」です。

今回のように、過去にも疫病が蔓延し、村や町が全滅の危機に瀕

したこともあったでしょう。しかし、そのときも消えかけた命を守り継いで下さった、ご先祖さまの智恵と努力があったからこそ、今、「その命」はあるのです。

ご先祖さまが今の皆さまのように、生きるためのあらゆる方法を模索し、駆使し、生き延びて下さったからこそその「命」であることを、改めて心に留め、そのご先祖さまを敬い、頭を垂れ、心より感謝をしたいものです。

巢籠もりから抜け出し、徐々に動ける社会となることを願いつつ、春の彼岸の参拝をして頂ければと思います。

共に参拝される子孫のかたには、墓前にて、生命のルーツとなるかたがここに眠っておられることや、人間の命の繋がりを伝える良い機会になるのではないのでしょうか。

桜の花と共に、皆さまの参拝を、皆さまのご先祖さまと共に、お待ち申し上げております。